

# 道の駅めぬまと立正大学との連携（進捗）

H27.4 道の駅「めぬま」、立正大学及び国の三者会議により実施内容を合意



H27.4 実施内容について記者発表

	学生による観光情報発信	新たな観光資源マップの作成
H27.4	<p>イベント時・夏期間の情報発信等の打ち合わせ</p> <p>↑</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来場者アンケート用紙の作成</li> <li>・道の駅を拠点とした観光モデルルートの検討</li> <li>・道の駅と大学(ゼミ)による打合せ</li> </ul>	<p>観光資源マップ作成の打ち合わせ</p> <p>↑</p> <p>学生によるフィールドワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・周辺の地域資源や観光情報など情報収集</li> </ul>
H27.5	<p>「熊谷妻沼 昭和まつり」への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅内に学生による観光案内デスクを設置</li> <li>・道の駅を拠点とした観光モデルルート案を紹介</li> <li>・道の駅の来場者アンケート調査</li> </ul>	<p>↑</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フィールドワークを実施</li> <li>・新たな地域資源を発掘</li> <li>・月1回程度、妻沼地区内で「町なかゼミ」を開催</li> </ul>
H27.6~7	<p>↑</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来場者アンケート用紙の修正</li> <li>・道の駅を拠点とした観光モデルルートの再検討</li> </ul>	<p>↑</p>
H27.8~9	<p>夏期間の観光情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・道の駅内に学生による観光案内デスクを設置</li> <li>・道の駅を拠点とした観光モデルルート案を紹介</li> <li>・道の駅の来場者アンケート調査</li> </ul>	<p>↑</p> <p>夏期間のフィールドワーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな地域資源を発掘</li> </ul>
H28.2	<p>↑</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来場者アンケートの集計、分析</li> <li>・新たなツアーコースの企画</li> </ul> <p><b>来場者アンケート分析報告 新たなツアーコースの提案</b></p>	<p>↑</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな観光資源マップ(試作版)として取りまとめ</li> <li>・試作版をもとに完成版の作成に向けて検討</li> <li>・月1回程度、妻沼地区内で「町なかゼミ」を開催</li> </ul> <p><b>新たな観光資源マップ完成</b></p>

## 【学生による観光情報発信】



道の駅の建物1階東側に休憩スペースがある。そこに置かれたソファの利用者は普段はそれほど多くはないが、バラ園が見頃となる5下旬の土日、中高年層を中心とした入館者でいっぱいとなる。



5月24日(日)開催の「昭和まつり」に合わせて、道の駅内の休憩スペースに観光案内デスクを設けた。午前・午後の交代制で、学生8名が妻沼に関する観光情報の提供と来場者アンケート調査を行った。

## 【新たな観光資源マップの作成】



4月26日(日)のフィールドワークでは、道の駅周辺と、妻沼聖天山に至るまでの地域資源について調査した。埼玉県内最古の用水路とされる備前渠用水浴いでは、ホテル生息の案内板が見られた。



道の駅と聖天山を結ぶルート上には農地が広がり、季節に応じて多品種の作物が栽培されている。5月24日(日)のフィールドワーク時には、熊谷特産の小麦が黄色く色づき、収穫の時期を迎えていた。

## 【来年度以降の取り組み】

- ・新たなツアーコースの企画、提案、実施
- ・地域性を活かした商品開発